

# 「少年の主張」弟子屈大会

平成28年度第36回「少年の主張」弟子屈大会が5月22日に町公民館で開催され、町内各小中学校の児童生徒の代表が、目で見て感じたことや体験して思ったことなどを、会場に訪れた多くの皆さまに語りかけました。最優秀賞には小学生の部で神田幸成君(川湯小学校6年)、中学生の部で浦山芽生さん(弟子屈中学校3年)が、それぞれ選ばれました。中学生の部最優秀賞の浦山さんは

7月28日に道立釧路高等技術専門学院で開催される「少年の主張釧路総合振興局地区大会」に出場します。

## 中学生の部 最優秀賞



### 支えることの大切さ 弟子屈中学校3年 浦山 芽生 さん

私はこのツイートをを見て、心底腹が立った。このツイートをした人はどんな人、十円でも一億人が寄付すれば、十億円にもなります。

今、私たちが、被災者にできることは、何だろうか。

私は北海道という熊本からかなり離れた場所に住んでいるため、被災地へ行き、ボランティア、ということも、なかなかできません。しかし、私のように、遠方に住む人たちでもできることは沢山あります。

例えば、募金をすることです。一

私の学校でも年に二回ほど、赤い羽根募金の活動が行われています。私も少しずつですが、毎回募金をするようにしています。

その他にも、SNSなどで、被災者の方に応援メッセージを送ったり、励ましたりするだけでも、被災者の気持ちは少しでもやわらぐはずですよ。

私も、去年の少年の主張釧路大会で、良い結果が出せず、悔しい思いをしている時に、友人の一言で励まされ、気持ちもやわらぎました。また、私は吹奏楽部に所属していて、コンクールで不本意な成績を残してしまっただけでも、同級生や後輩に励まされ、これから頑張ろうと思えました。今でも、練習の時などに辛いこともありますが、部員の人たちがお互いに励ましあい、辛い練習をのりこえています。このように辛いときに、励ましたり、励ましたりしてくれる人の大切さを私は実感したからです。

また、今回の地震で亡くなった人の分も精一杯生きるということも大切だと思えます。亡くなった人達のためにも生きていく私達は、自分のできることを精一杯やり、自分だけではなく、周りの人々のことも考えて生きてゆかなければならないと思います。

周りに、地震で辛い思いをしている人や、学校や部活で苦しい思いをしている人はいませんか？そこで、助けたり、支えあうのが大切です。みなさんも、誰かに支えられているということを忘れず、毎日一生懸命過ごしてください。

二〇一六年、四月十四日、九州地方でマグニチュード六・五の地震が起こりました。

熊本では、余震が九六一回にもおよび、二一〇〇棟以上の建物が全壊しました。これは私が住んでいる弟子屈町に例えると、町全体の建物が全てなくなるという状態です。そして、負傷者一四〇〇人以上、死者五〇人以上、そして、未だ見つからない行方不明者一人という、この状況を、みなさんは、どう感じるでしょうか？「大丈夫かな？」「何か自分でできることはないかな？」と感じる人もいれば、「他人事」「こっちは被害ないからどうでも良い」と感じる人もいるのではないのでしょうか。

震災が起こってから何日か経ったある日、とんでもない内容のツイートが私のスマートフォンに流れてきた。「熊本の地震のせいで見たいテレビが見れない。」という内容だった。

気持ちでツイートしたのだろうか。これこそ、「他人事」ではないだろうか？確かに、自分の地域には被害がないから、他人事かもしれない。だが、このツイートを見た被災者はどんな気持ちになるか、自分が被災者の立場だったらどう思うか、そういうことを考えてツイートしたのだろうか。私はこの人の気持ちが全くわからなかった。

しかし、もちろんこういった考えの人だけではない。熊本の状況をテレビなどで知り、支援物資を送ったり、ボランティアに参加するなど、少しでも被災者の役に立てたい、という人が何人も何人もいた。中には、まだ高校生なのに、支援物資を送っている人もいた。

ボランティア活動の様子は、テレビでも放送されていた。ボランティアをしている人の中に、広島から来た、という人もいた。その理由を聞くと、二〇一四年の広島土砂災害で、ボランティアの方々に助けられた。県民として、その恩返しのためです。と語っていた。

まず、先ばいのようなりっぱな児童会長になるために、ぼくがこれから一年間児童会長としてがんばって行くべきことはいくつかあると考えています。

一つ目は、自分からいつでもどこでもだれにでもあいさつをすることです。事務局でもポスターや呼びかけをしたりしながらあいさつ運動に取り組んでいきます。ぼくの先ばい方はみんな声も大きく、ハキハキとあいさつをしています。同じ学年の友達だけではなく、他の学年の友達や先生方、地域の方々などにも積極的にあいさつしていました。あいさつが飛び交うことで、川湯小学校が明るく、楽しく、仲の良い学校になっていくと感じました。また、「元気のいい学校だね。」「すてきな学校だね。」と喜んでくれる人もたくさんいたと聞いています。ですが、今現在、前よりもあいさつが出来ていないと感じています。ぼくは、先ばい方が作ってきた川湯小学校のすてきな所を引きついでいくためにも、みんなにあいさつをしてほしいと考えています。では、どうすればあいさつが活発になるのでしょうか。その時、ふと思いついたのは、亜樹斗君の姿です。彼は学校のリーダーとして明るく、声も大きく、どこでもあいさつをしていました。ぼく自身、その姿を見て、「あいさつは大切なんだな。」「ぼくもしないと。」と思うようになった。

## 小学生の部 最優秀賞



### 目標にしている人 川湯小学校6年 神田 幸成 君

今、ぼくの中では亜樹斗君は目標の人です。ですが、ぼくは児童会長の任期が終わる時には、彼よりもりっぱな児童会長になっていきたいです。これから一年間、あいさつ、司会、それ以外にも多くの取り組みをしていきます。失敗することもなくさんあると思います。幸成君のようにになりたい。と言ってもらえるようにがんばっていきたく思います。みなさんも、目標にしたい人を見つけてみませんか。きっと、ぼくのように「がんばるぞ」という気持ちが出てきたり、大きくなったりするかもしれません。

みなさんは、目標にしている人はいますか。その人のように、がんばりたいと思うことはありませんか。ぼくは、川湯小学校の児童会長をしています。そして、ぼくは目標にしている人がいます。それは、田本亜樹斗君という先ばいで、す。ぼくは、五年生のとき、児童会長の亜樹斗君と事務局で一年間いっしょに学校のために活動してきました。その中で、亜樹斗君とあいさつ運動など一緒に働いていく中で、亜樹斗君は、児童会長としてみんなをまとめていて、キラキラして見えるなあ。」と思いました。その姿を見て、ぼく自身も亜樹斗君のようにりっぱな児童会長になりたいと思うようになりました。

まず、先ばいのようなりっぱな児童会長になるために、ぼくがこれから一年間児童会長としてがんばって行くべきことはいくつかあると考えています。

一つ目は、自分からいつでもどこでもだれにでもあいさつをすることです。事務局でもポスターや呼びかけをしたりしながらあいさつ運動に取り組んでいきます。ぼくの先ばい方はみんな声も大きく、ハキハキとあいさつをしています。同じ学年の友達だけではなく、他の学年の友達や先生方、地域の方々などにも積極的にあいさつしていました。あいさつが飛び交うことで、川湯小学校が明るく、楽しく、仲の良い学校になっていくと感じました。また、「元気のいい学校だね。」「すてきな学校だね。」と喜んでくれる人もたくさんいたと聞いています。ですが、今現在、前よりもあいさつが出来ていないと感じています。ぼくは、先ばい方が作ってきた川湯小学校のすてきな所を引きついでいくためにも、みんなにあいさつをしてほしいと考えています。では、どうすればあいさつが活発になるのでしょうか。その時、ふと思いついたのは、亜樹斗君の姿です。彼は学校のリーダーとして明るく、声も大きく、どこでもあいさつをしていました。ぼく自身、その姿を見て、「あいさつは大切なんだな。」「ぼくもしないと。」と思うようになった。

なりました。なので、次はぼくがみんなのお手本になれるように、自分からいつでもどこでもだれにでもあいさつをしていかなければなりません。これから、先ばいみたいに、いや、先ばい方よりも良いあいさつをし、川湯小学校の良さを下の学年にも引きついでいきたいです。

二つ目は、みんなの前で司会やあいさつを堂々とすることです。ぼくも、最初は人前で話すことが苦手でした。学級でも事務局でも声が小さく、はずかしがりながらしゃべることが多かったです。でももらえるように堂々と話さなければいけないという責任感もあります。亜樹斗君も、いつも堂々として、頼りがいのある児童会長でした。ですので、ぼくも見習ってみんなに頼ってもらえるような姿をみせていきたいです。



少年の主張弟子屈大会



少年の主張弟子屈大会

## 中学生の部 審査結果(敬称略)

- 最優秀賞 「支えることの大切さ」(弟子屈中3年 浦山 芽生)
- 優秀賞 「自分」(弟子屈中2年 島山 颯太)
- 優良賞 「たった一つの命だから」(川湯中2年 山川 菜)
- 参加奨励賞 「「ありがとう」を伝えたい」(弟子屈中1年 澁田 小晴)
- 参加奨励賞 「中学生という立場」(弟子屈中1年 大越 愛梨奈)
- 参加奨励賞 「わが町弟子屈・川湯」(川湯中1年 徳永 梨奈)
- 参加奨励賞 「さらに向こうへ」(弟子屈中2年 佐々木 愛)
- 参加奨励賞 「私の幸せ」(弟子屈中3年 西端 愛香)
- 参加奨励賞 「私の大切な家族」(川湯中3年 石川 瑠望)

## 小学生の部 審査結果(敬称略)

- 最優秀賞 「目標にしている人」(川湯小6年 神田 幸成)
- 優秀賞 「毎日にありがとう」(弟子屈小6年 山家 朱理)
- 優良賞 「努力の結晶」(弟子屈小6年 宮田 奏海)
- 優良賞 「挑戦しないことには始まらない」(奥春別小6年 深井 朋香)
- 参加奨励賞 「将来の夢」(美留和小6年 北林 聖也)
- 参加奨励賞 「失敗しても次成功すればいい」(和琴小6年 土田 渉介)